

抄 録

第20回山口県院内感染防止研究会

日 時：平成24年7月7日（土）
 場 所：山口グランドホテル
 代表世話人：古川裕之・花田千鶴美
 共 催：山口県院内感染防止研究会
 山口県看護協会
 山口県病院薬剤師会

1. ICUにおけるVAP（人工呼吸器関連肺炎）発生率
低減への取り組み

独立行政法人国立病院機構関門医療センター ICU
 ○高井蔦恵, 稲富純子, 青木恵美, 渡邊紗央,
 三村由佳

【はじめに】当ICUでは平成22年度よりNHSN（National Healthcare Safety Network）診断基準に基づき、VAPサーベイランスを開始している。平成22年度サーベイランス結果では、当ICUにおけるVAP発生率は6.23/1000 device daysと高い結果であった。そのため、今年度VAP発生率を2.2/1000 device daysまで低減させることを目標に活動を行った。【活動内容】1）30度頭位挙上体位の実施2）早期抜管に向けた取り組み3）VAP予防に視点を置いた口腔ケアの実践【結果・考察】平成23年6月から12月までのVAP発生率は2.38/1000 device daysとなった。目標値は達成できなかったが、昨年度に比べVAP発生率の低減は図れた。【おわりに】患者と最も関わる時間の多い看護師がVAP予防のために貢献できることは多い。今後も他職種との連携を図りながらVAP予防対策に取り組んでいく。

2. 救急部受診時より始める感染対策の取り組みの
効果と課題

山口県立総合医療センター 救急部
 ○黨 陽子, 山本さゆり, 上田貴志

【はじめに】当院救急部の過去3年間の平均年間受診者数は約1万7千人で、そのうち感染徴候（咳・発熱・下痢嘔吐・発疹）のある患者の割合が、約3割を占める。救急部看護師より、感染徴候のある患者の受診時、どういう感染対策を行ったら良いのか不安という意見があった。そこで、昨年トリアージの時点で不安なく正しい感染対策を開始できるように、感染経路別予防策が分かるマニュアルを作成・導入した。導入から1年が経過し、マニュアルの効果把握するため、質問紙調査を行い感染対策の取り組みを再検討したので報告する。

【方法】救急部看護師24名に対し、感染対策への意識と行動について質問紙調査を行い、マニュアル導入前と比較した。

【結果・考察】マニュアル導入前と比較すると、他の患者から離れた場所に座るよう指導するという項目のみ実施率が上昇したが、他の項目については変化がみられなかった。マニュアル作成により、感染徴候のある患者に対して感染経路別予防策を行うという認識を持ったが、防護具着用など時間のかかる対策については実施率が低かった。また、空気感染予防策でエプロンを着用するとの回答があり、感染経路別予防策の理解が十分でないことが分かった。そのため、実際の場面での看護師の行動を振り返って指導を行ったり、定期的な講習会の開催を今後検討していきたい。

3. マンシェットの効果的な消毒方法、間隔の検討

山口大学医学部附属病院 看護部¹⁾, ICT²⁾,
 薬剤部³⁾

○藤井智恵^{1, 2)}, 村上由香里¹⁾, 藤井靖子¹⁾,
 重富恵子¹⁾, 福原美緒¹⁾, 山下育枝¹⁾,
 西村淑乃¹⁾, 尾家重治³⁾

【目的】ICTラウンドでマンシェットからMRSAが検出された。アルコール消毒と熱水洗浄の併用によ

る細菌調査を行い、マンシュートによる交差感染を最小限にするための消毒の方法や間隔について検討したので報告する。

【方法】①マンシュートをアルコールで毎日清拭消毒し、1週間後に熱水洗浄を行った。消毒開始前と1週間の消毒後、熱水洗浄後に細菌調査を行った。

②マンシュートをアルコールで毎日清拭消毒し、2週間後に細菌調査実施し、熱水洗浄を行った。同じ方法を1ヵ月後にも実施し、間隔の比較検討をした。

【結果】総菌数、MRSA数は消毒前後、熱水洗浄後で有意差はなかったが減少しており、熱水洗浄後のMRSA数は0であった。使用後2週間、1ヵ月で総菌数、MRSA数に有意差は認められなかったが、MRSA数は2週間後からは検出されなかった。

【結論】マンシュートはアルコール消毒に加え、熱水洗浄をすることが効果的であり、熱水洗浄は2週間毎の間隔が感染対策上有用であると考えられる。

4. MRSA患者のリネン交換時の空気中細菌汚染

山口労災病院 薬剤部,

山口大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾

○山崎博史, 尾家重治¹⁾, 宮野直之, 古川裕之¹⁾

【目的】近年、薬剤耐性菌の伝播として環境を介した間接的な接触による感染経路が注目されている。患者のリネンを交換する時は多くの埃に付着した細菌が舞い上がり、その細菌が伝播経路となりうる可能性が考えられる。今回、我々はMRSA（感染、保菌）患者のリネン交換時の空気中のMRSA汚染を検討する目的で空気環境調査を行った。

【方法】サンプリングはMRSA患者（n=68）の病室を対象として3回（リネン交換前、交換中、交換10分後）エアーサンプラーを用い1000リットルの空気採集を行った。使用培地はパールコアマンニット食塩培地を用い、空気採集後35℃48時間培養および同定検査を行った。

【結果】MRSA患者の病室の空中細菌数（平均）はリネン交換前は 24.6 ± 20.5 cfu/m³であったが、リネン交換時は 189.9 ± 157.9 cfu/m³に増加した。リネン交換10分後の空気中細菌数（平均）は 23.3 ± 22.9 cfu/m³になりリネン交換前とほぼ同じ値であった。MRSA患者の病室の環境調査68例中32例

（47.1%）に空気中よりMRSAが検出された。菌量（平均）は 15.3 ± 29.7 cfu/m³であった。

【結論】リネン交換時のMRSA患者の病室の空気中からMRSAが検出された。空気中に浮遊しているMRSAが作業中にスタッフへ付着し、そのスタッフが伝播経路となりうる可能性が示唆される。MRSA感染防止対策としてスタッフはMRSA患者のリネン交換の際は窓を開けて空気の流れをつくり浮遊菌量を減らすことが必要である。また、サージカルマスク、ビニールガウン、ビニール手袋を確実に着用すべきであると考えられる。

5. 抗菌剤許可制（届出制）の有用性に関する実態調査

山口県病院薬剤師会 感染制御委員会

○白野陽正

【はじめに】抗菌剤許可制（届出制）の有用性に関する調査を実施した。【方法】平成23年7～8月に、九州山口地区9県の病院から無作為に抽出した300施設を対象に、アンケートを実施した。調査項目は、院内感染対策委員会、抗菌剤の届出制・許可制等である。【結果】回収率は69.3%（208/300施設）で、届出制は65.9%（137/208施設）、許可制は14.4%（30/208施設）で実施していた。届出制は有用であるかの問いに51.4%（107/208施設）が、許可制は有用であるかの問いに36.1%（75/208施設）が有用であると回答した。【考察】届出制はある一定の効果はあげていると思われる。届出を出すのみでなく、薬剤部やICT（Infection Control Team）等でも抗菌剤の適正使用を促す必要があると思われる。許可制は、誰が許可するかも問題となる。200床未満の病院は、届出制・許可制等を実施している施設が少ない。小規模病院の抗菌剤の適正使用の推進が、今後の課題となると思われる。

6. 抗菌薬適正使用にむけて—当院における取り組み—

長門総合病院 感染対策チーム

○長野恵子, 高田英之, 藤永 聡, 高場満也,
山本普隆

【目的】 抗菌薬適正使用

【方法】 抗菌薬の選択時に参考となる資料を作成し、院内HPに掲載した。また、用時利用できるようポケット版を医師用に作成し、説明しながら手渡しした。内容は、1. 当院における平成23年度薬剤感受性一覧, 2. 肺炎・尿路感染・腹腔内感染・下痢症に推奨する抗菌薬とその使用量, 必要な細菌検査, 処置, 3. 腎機能に応じた抗菌薬使用量・使用回数一覧である。

【考察】 感染症治療において、初期の抗菌薬選択は非常に重要である。しかし当院ではエンピリックで広域の抗菌薬を使用し、de-escalationせず継続使用する症例が多くみられる。今回の資料が抗菌薬の適正使用につながることを期待している。

講 演

座長 山口大学医学部附属病院

看護部長 花田千鶴美

「院内感染対策—消毒を中心として—」

山口大学医学部附属病院 薬剤部

准教授 尾家重治 先生

特別講演

座長 山口大学医学部附属病院 薬剤部

准教授 尾家重治

「感染対策の実践

—ソフトとハードの奏でるハーモニー—」

倉敷広済病院 宇部記念病院

理事長 江澤和彦 先生